

金剛寶戒寺便

<https://www.houkaiji.jp>

令和五年三月一日発行 第一〇八号

檀信徒の皆様こんにちは。境内の草木に力強い緑が戻ってきました。これまでに無いほど早い春を感じています。

昨年より、開創千三百年記念事業として、庫裏建て替え並びに法要会館の新築の勧進をお願い致しております。二月末時点において、檀信徒様からのご寄進とお寺の蓄財を合わせて当初予定していました寄付金に近い淨財が集まっております。日常において儉約の毎日をおくられている皆様から貴重なご寄進をお預かり致しました。この紙面におきまして改めての御礼とご報告をさせていただきます。また、分割でのご寄付をお申込みいただいている方々もいらつしやいますので、最終的なご報告は建築完成後にもさせて頂きますが、ご存じのようにこの半年で稀に見ぬ物価高や円安などが発生しており、現在、佐伯建設様に再度見積もりをお願いしているのが現状です。総代様には、お忙しい時間を縫って頂き、月に一度くらいの頻度にてご報告を兼ねた会議を開いています。昨今はSNSなどを用いての意見交換なども出来ており、時代の変化も実感しています。

今月は洋の東西も分からない逸話をご紹介いたします。その昔、全く無関係の若者が別々に同じ宿場町を旅行していました。二人

は新しい宿場町に移動したときに、街で見かけた老人に同じ事をたずねました。「おじいさん、この町はどんな町ですか？」すると、その老人は逆に聞き返したそうです。「前に滞在していた町はどうだったか」と。最初の若者は「前にいた町は素晴らしかったです。人情味厚く、親切でとても良くしてくれました。」と答えました。すると老人は「この町も同じ。みな親切で優しい町じゃよ」と答えました。もう一人の若者は同じ質問に「前の町はひどかった。陰気で不親切な人ばかり、散々な目に会いました。」と答えたとそうです。すると老人は「この町も同じ。みな不親切で陰気な町じゃよ」と答え、現実もその様になったそうです。

先月は檀信徒の皆様にも星まつりのお札をお配りいたしました。弘法大師様より伝わる星供養法を年始より修法し祈念して参りました。しかしながら、厄年や黒星などの運気ばかりで人生が決まるわけではありません。悪い年周りの時には普段以上に気を付けることは肝心かと思いますが、必要以上に神経質になる必要はありません。車の運転と同じで慎重な操縦を心掛けながらも、急ブレーキばかりはかえって危険となり、適度な遊びも必要だと思います。

同じように、ご祈願やご祈祷、ご供養もそれらで全てが決まるわけでもありません。時々「自分は全く悪いことをしていないのに

不運ばかりだけれども、良くない行いをしてる〇〇は運が良いのは何故だろうか？」といったご質問を受けます。お気持ちは分かりますが、薬などと同じで直ぐに効果が表れる事もあれば、なかなか結果が出にくいこともあります。まして諸行無常をこの世の真理としている仏教では、死や病は避ける事のできない出来事でもあります。大切なのは日常をどのように感じ、どのように過ごしていくかということではないでしょうか。

八日の講習会では鹿嶋隆志先生をお迎えし「成年後見制度」の基礎をお話頂きました。その第一声は「私たちは年齢とともに足腰や目、耳ばかりでなく記憶力や判断能力が低下していくことは避けられませんね。」でした。それらを踏まえた上で、自分らしく生きていく為に活用するのが「成年後見制度」であり、誰もが利用することが出来る権利であること。また法定後見制度には後見の前段階として補佐、補助という三種類があること、後見は本人に代わって全ての判断をしますので大変に責任が重たいことなどをお話頂きました。とても興味深い内容だったので、またの機会に講演をお願いしたいと考えています。

令和五年四月八日（日曜日）十時半より

金剛宝戒寺 本堂において

法話の会「偉人に学ぶ」

時間をお間違いないようお願い致します。